

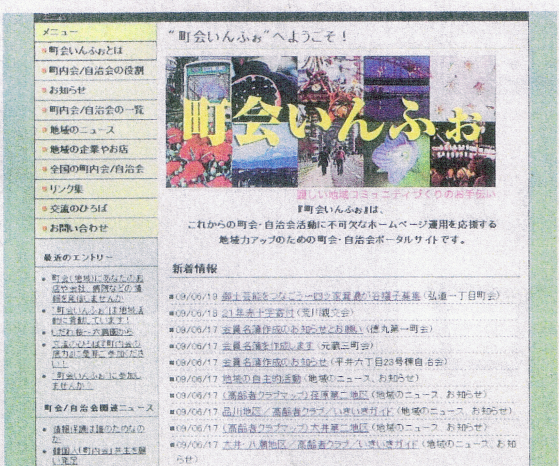
# 松本 神田町会 箕輪 漆戸常会 自治組織 H P を活用

生活様式の多様化に伴って、活性化に苦心している自治会や町内会、区会などの自治組織は少なくない。そんな中、住民同士の新たな意思疎通の方法として、インターネットに自治組織のウェブサイトを作り、行事予定や生活情報、地域の歴史などを発信する動きが出てきている。(中野弘之)

「我が家の自慢『皇月の盆栽』」  
「春季アメリコ駆除実施のお知らせ」  
「神田公民館カラオケ設置のお知らせ」…松本市の神田町会ホームページ(H P)のトップには、地域のお知らせやニュースがずらりと並び、開設は2002年3月。高橋正治町会長(72)は「総会で『インターネットで情報を得られるようにしてほしい』との意見が出たのがきっかけだった」と振り返る。

H Pにはほかにも、自然豊かな千鹿頭池の四季の写真、ボランティア団体など各種団体の紹介、短歌を掲載した「文芸館」など盛りだくさんだ。事務局の12人がページを分担して取材と

資料収集に当たり、情報を更新している。  
新住民からは「町内のことが分かりやすい」、仕事や結婚で町外へ出た人たちからは「故郷の様子が分かってうれしい」と感想が寄せられている。完成度の高さから、埼玉県や栃木県などの町内会が、H P運営の視察に訪れた。



「文洋」が運営する自治組織のホームページを集めたウェブサイト「町会いんふお」

町会いんふおトップページ



## 行事予定や生活情報 発信

神社の御柱大祭」があり、「もともと住民の結束が固い地域」と、H P事務局長の井口政広(64)さん。事務局の高根俊宏さん(38)は「得意分野を生かし、町会に貢献できるのはうれしい」。重度の障害がある横山浩一さん(46)も事務局に参加。インターネットなら町会に協力できる」と話した。若い世代にも門戸を開く姿勢が、結束をさらに強めている。

上伊那郡箕輪町の漆戸常会も5月、神田町会も参考に、H Pを開設。40代の4人が運営を担い、歴史や文化遺産などの情報を掲載している。担当者の漆戸正治さん(41)は「伝統行事や歴史を、幅広い人たちに知っ

町会いんふおの記事です

## 若い世代の参加 促すきっかけに

てもいいかった」と言っ。H P作りを通じ、伝統行事への親しみも深まった。「自分たちのできること」で、常会をサポートしたい」と漆戸さんは話す。  
未加入世帯の増加で、各地の自治組織は悩んでいる。そんな中、東京都の出版社「文洋」は07年、都内などの町内会のH Pを集めたウェブサイト「町会いんふお」(http://www.chokai.info/)を開設した。もともと町内会名簿出版などが本業。顧客の町内会へのサービスとして、各町内会のH Pづくりを始めた。現在、東京、千葉、埼玉の自治組織200近くのH P運営を、無償で請け負っている。

全国の自治会や町内会のH Pの中には、更新が止まってしまっているものも多い。「担当者が町外に出てしまったり、反応がなかりがいを失ったりと、自主管理は難しい面がある」と、社長の遠藤義徳さん(44)。第三者が運営を受託すれば、息長く続けられると考える。

今後、全国の自治組織のH P運営を月々5千円程度で引き受けていくという。「メールやアクセスなどで最新情報さえ送ってもらえば、遠隔地でも運営を引き受けると遠藤さん。「町内会役員と若い世代の接点が無くなった今、町内会の門戸を若い世代に開く意味でも、H P開設は必要性を増してくると思う」と話していた。

ホームページの内容について話し合う神田町会H P事務局のメンバー 松本市